

成申渡御、近日人々有此經營之故也、未斜室町殿（中略）御俗名義教、渡御彼宿所（西洞院以西、冷泉以南、二條以北）、諸大名（領管細川右京大夫持之朝臣）、爲御相伴、在其席、猿樂三番、盃酌五獻之時分、開御座、後障子、著甲冑武者數十人、亂入之、奉弑之、其時管領已下、著座之諸大名、即起座退出、不及報答（中略）、室町殿御頸爲敵被取了、

〔中國治亂記〕天文廿一年ニ成リテ、杉伯耆守重矩ガ表裏アリテ、義隆卿ヘ讒言ノ狀ドモ出現シテ、

陶尾張守是ヲ見テ、大ニ仰天シテ、扱ハ屋形ノ吾ヲ可討トハ、思召モヨラザリシ、僞ノ讒臣等ガ中

言故、吾ヲト不和ニ成玉ヒ、下剋上ノ合戰、天ノセメモノガレガタシトテ、則尾張守ハ入道シテ法

名全姜ト號、義隆卿ヲ奉討、又公家衆ヲアマタ害シ、渡唐ノ合封ノ印判マデ燒失シ事、後悔シケレ

ドモ甲斐モナシ、

〔御湯殿の上の日記〕永祿八年五月十九日、みよし（義）、ぶけ（將軍足利義輝）、をとりまきて、ぶけをうちじ

にて、あとをやき、くろつちになし候、ちかごろくことのはもなき事にて候、

〔言繼卿記〕永祿八年五月十九日、辰刻三好人數、松永右衛門佐（秀）、久等、以一萬計、俄武家（足利義輝）、御所

ヘ亂入、取卷之戰、暫云々、奉公衆數多討死云々、大樹午初點、御生害云々、不可說之、先代未聞儀也、阿

州之武家（足利義榮）、可有御上洛故云々、

〔常山紀談（四）〕東照宮（德川家康）、信長に御對面の時、松永彈正久秀、かたへにあり、信長此老翁は世人

のなしがたき事三ツなしたる者なり、將軍を弑し奉り、又己が主君の三好を殺し、南都の大佛

殿を焚たる、松永と申者なりと、申されしに、松永汗をながして赤面せり、

〔總見記（二十三）〕惟任日向守奉弑逆主君御父子事

今夜（天正十年六月朔日）、光秀多勢ヲ率シ、中國出勢ノ行粧、大臣家（織田信長）、ヘ御目ニ掛ベキタメ、上洛ノ由

披露セシメ（中略）、今夜曉方諸勢、本能寺ヘ參陣シ、彼寺ヲ取マキ畢ヌ、同月二日黎明、光秀總人數弓

鐵炮頻リニ放チ、闕ヲ揚テ、本能寺ヲ攻ル、大臣家ヲ始メ、御小姓供廻ノ面々マデ、只當座ノ喧嘩ニ